

狩江地域づくり計画書

第2次（2016～2025年度）

こびない
はじない
さびない^{むら}集落で
人と仕事をつくる

目 次

はじめに	1
狩江のすがた	2
第2次計画のキャッチフレーズ	7
狩江の今と将来	
・人口減少、待ったなし！	8
・「狩江魂」(かりえだましい)を伝える	10
・住める場所をつくる	12
・仕事をつくる	14
・暮らしの安心を守り未来へ備える	16
・暮らしがもっと楽しくなるようにする	18
・もっと狩江を知る。狩江を学びの場にする	20
【3つのつながりプロジェクト】	22
・狩江内外の人のつながりを育てる	23
・漁業を核に狩江のつながりを見出す	24
・空き家対策に狩江のつながりを活用する	25
【将来計画】	
僕が二十歳になったとき、狩江が大好きになっているために	26
狩江地域づくり組織図	28
狩江人に告ぐ(かりとりもさくの会設立宣言)	30
あとがき	33

はじめに(かりとりもさく2回目のことはじめ)

平成23年6月にかりとりもさくの会を設立し、6年が経とうとしています。私も役員として4年間関わり、立ち上げた時の皆様のご苦勞をしみじみと感じているところです。その一方で、この会が何のためにあるのか、またこれからどう向かおうとしているのか、地区住民の皆様はどうか受けとめておられるのか、心配なこともたくさん浮かんできます。

今回、5年ぶりに地域の向かうべき道を示した、地域づくり計画を見直しました。できあがったこの計画書は、地区教育研究大会やその他の機会を通じて、直接皆様の意見を聞いたり集めたりしながらつくりあげたもので、これから10年先を目標としています。5年前と比べると、社会や世界の流れ、政治も変化のスピードを増し、その影響はこんな小さな集落にも及びつつあります。

- ・私たちの20年後の暮らしは？
- ・今生まれた子どもが成人した時、どんな狩江になっている？
- ・今、何をすればいいの？

そんな思いに込めようとした狩江地域づくり第2次計画書です。

先のことは誰にもわかりません。だからいまこそ知恵を出し、勇気を奮い起こしましょう。

計画書作成にあたっては、調査やワークショップなどをはじめ、愛媛大学社会共創学部の笠松先生のご指導や同ゼミ学生たちのご協力、ご支援をいただきましたこと、この場を借りて御礼を申し上げます。

2017年3月

かりとりもさくの会 会長 宇都宮 紳二

かりとりもさくの会…「かり」は狩浜の「かり」、「と」は渡江の「と」。私たちがまいた種(知恵やアイデア)はいずれ芽を出し、みのりの季節を迎える。収穫(刈り取り)に感謝しながら、いずれ来る次の春(世代)のために何をつくるかみんなで考えます。「かりとりもさく」の会は、住民(もさく)が力を合わせ(刈り取り)知恵を寄せ合い、狩江の明日を「模索」する会です。「もさくの会」の命名の裏には「種まきごんべの会」の存在があります。

狩江のすがた

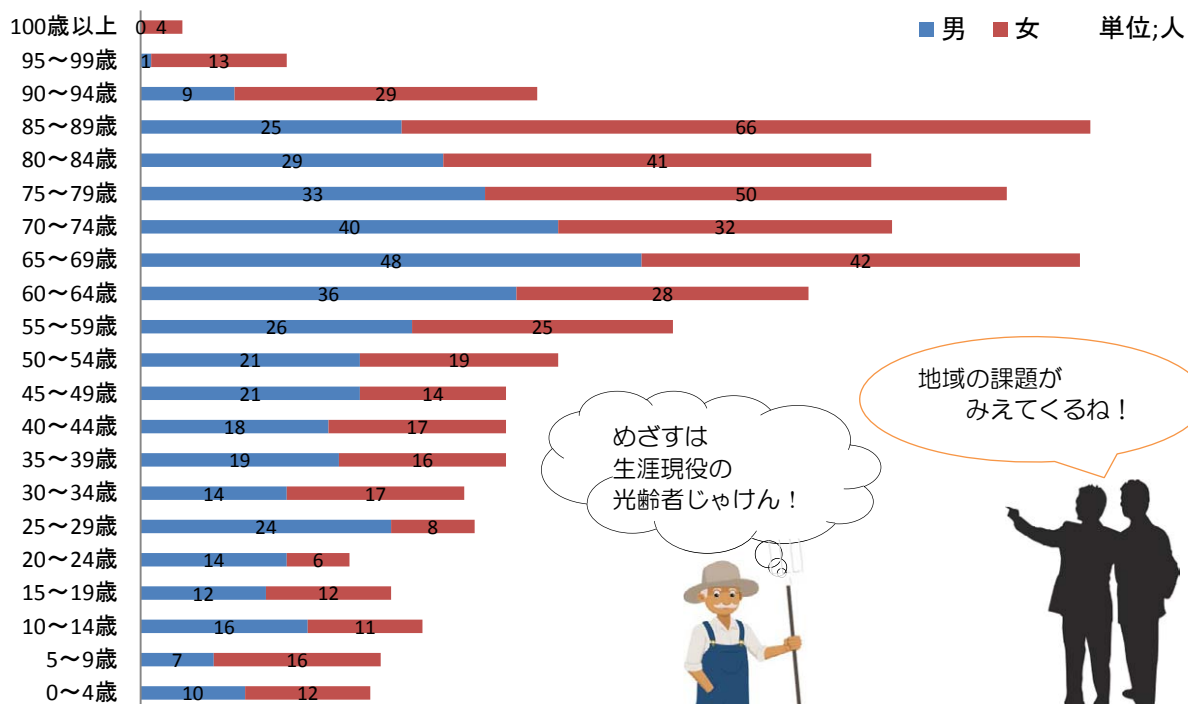
狩江地区世帯数、人口（外国人含む）

平成 28 年 4 月住民基本台帳

行政区	世帯数 (戸数)	人 口 (人)		
		男	女	合計
渡 江 ①	72	98	101	199
門之脇	77	85	100	185
大狩浜	54	67	65	132
枝浦 計 ②	131	152	165	317
浜 組	34	40	45	85
上 組	63	70	46	116
南 組	36	49	38	87
本浦 計 ③	133	159	129	288
狩江 小計④=①+②+③	336	409	395	804
特別養護老人ホームあけはま荘	84	18	66	84
ケアハウスはまゆう	27	5	22	27
施設入所計 ⑤	111	23	88	111
狩江合計(施設含む) ④+⑤	447	432	483	915
上記合計のうち外国人の数(内数)	23	22	1	23

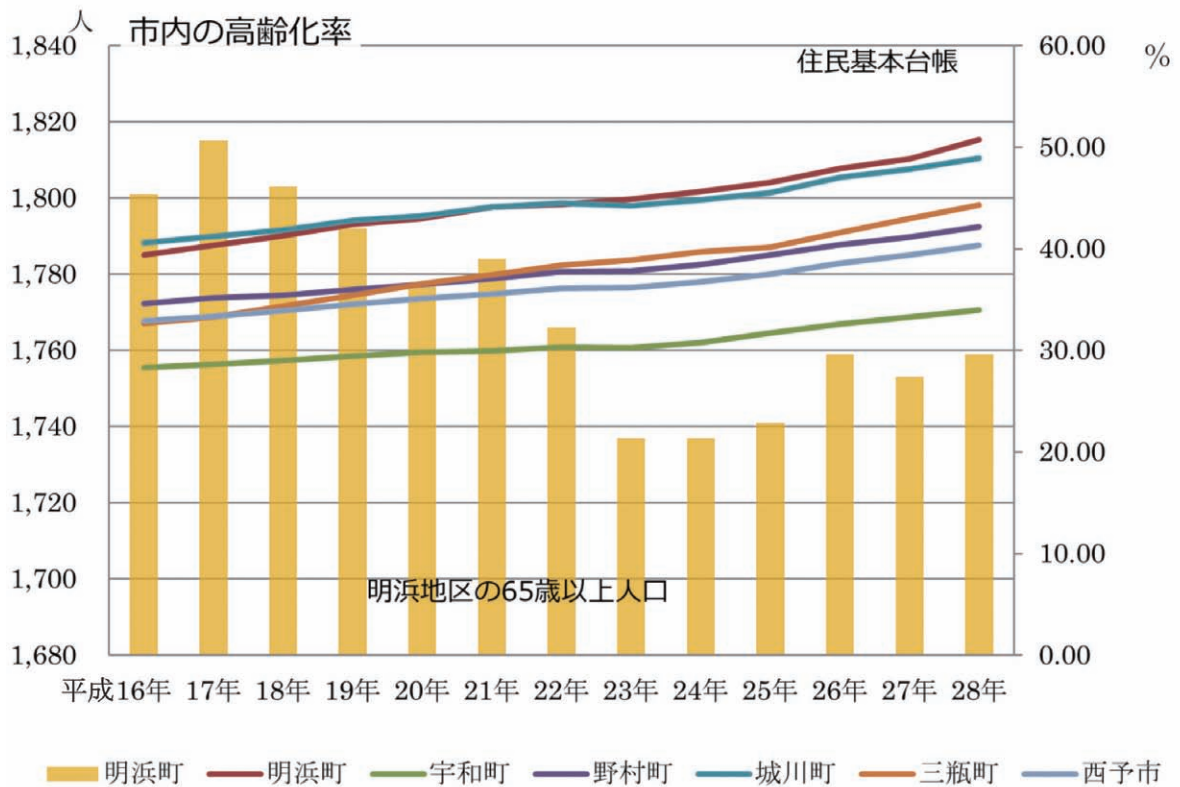
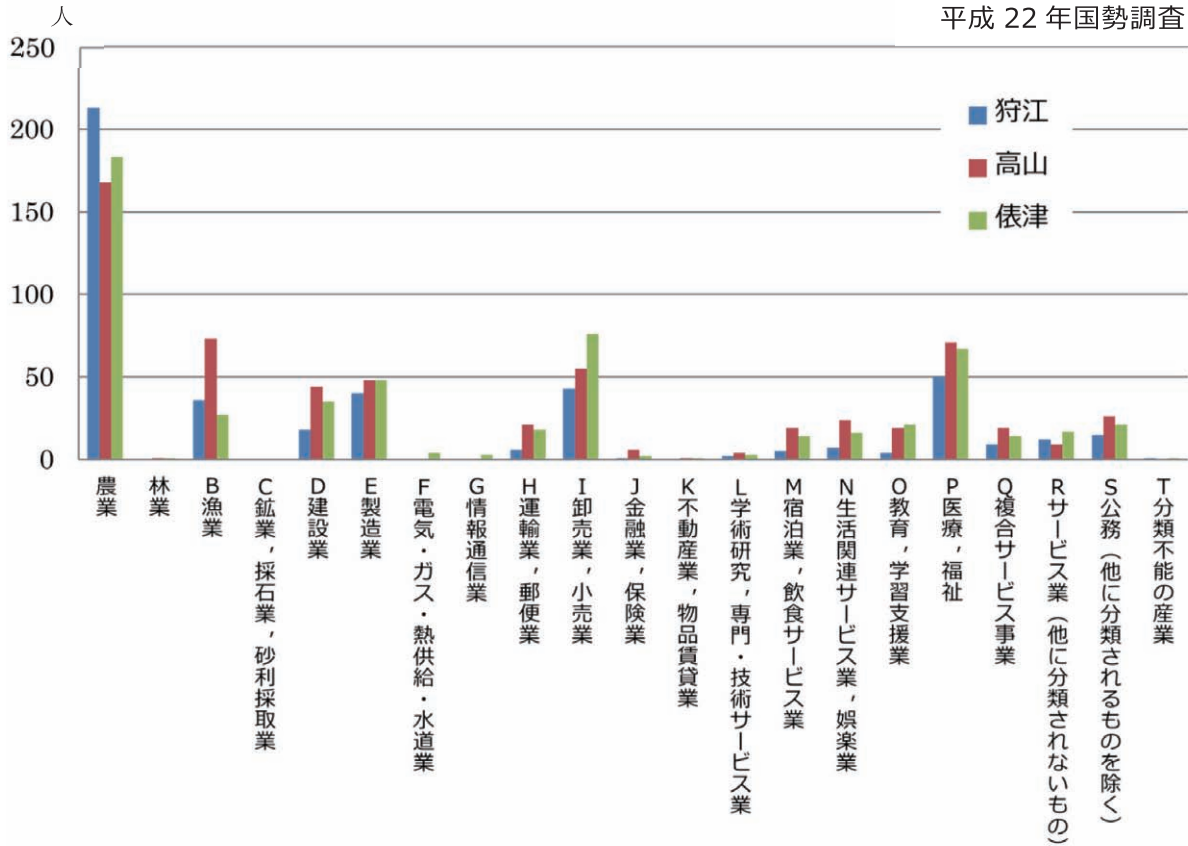
狩江地区の年齢、男女別人口

平成27年国勢調査



明浜地区の15歳以上の就業者数（分野別）

平成 22 年国勢調査



狩江のええところをさがしましたけん!

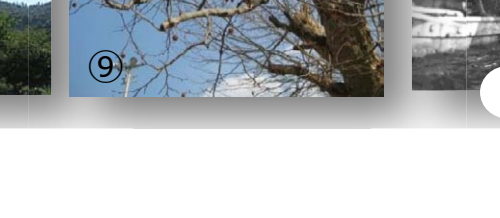
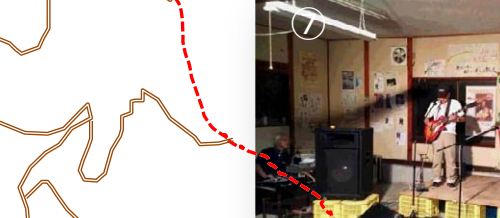
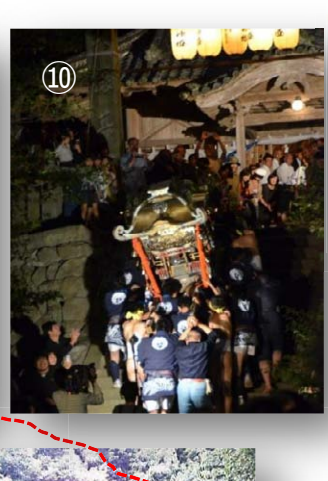
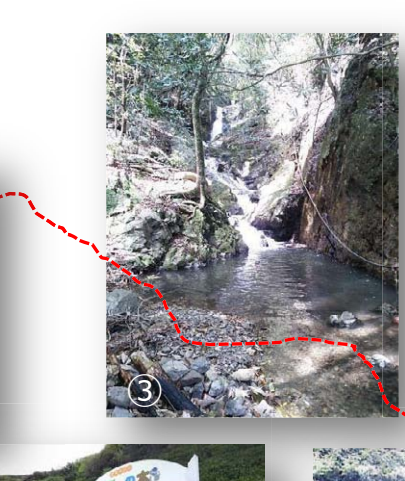
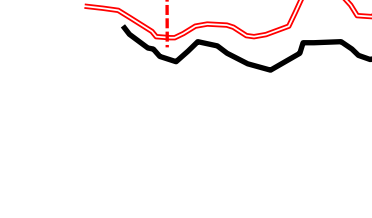
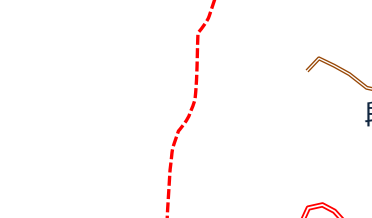
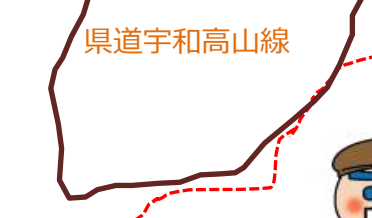
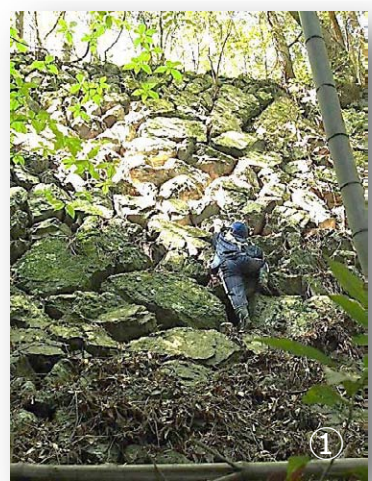
【文化財】※市指定文化財、参考資料も含んでいます。

＜渡江地区＞

- 渡江の盆踊り
- 竹網
- 主谷池(オモタニイケ)
- 役筆筈(ヤクタンズ)及び古地図
- 源祐七廟
- 延命地蔵
- 金光山龍泉寺
- 加茂神社

＜狩浜地区＞

- 徳壽山廣福寺
- 宝篋印塔(ホウキョウイントウ)、開山塔、一石五輪塔
- 金銅釈迦如来立像、阿弥陀如来坐像
- 春日神社
- 神社鳥居、神社絵馬、神社社叢(シヤソウ)、狛犬、神社常夜燈
- 秋季大祭
- 木彫の獅子頭、天狗面、五つ鹿の古面、お船練り、太神楽
- その他
- 縄文の石斧(セキフ)、ハシロリの五輪塔群、アジロの層塔
- 祇園様の常夜燈、長屋門、お伊勢山
- 威徳院源界法印(イトクインゲンカイホウイン)の墓
- 天神の森、城山、青い目の人形(明浜小で保管)
- ※狩浜の段々畑と集落、宇和海の複合的景観(名称未定)は国重要文化的景観選定申し出に向け調査中です。



⑥「えがおの木」は、東日本大震災の後、「全国かまぼこ板の絵展覧会」を通じて交流がはじまった田老第三小学校の児童が種から育てたミカン苗木を元に植樹したもので、接ぎ木で仲間を増やしています。



狩江のすがたでもう一つの宝物、それは地名（小字）です

みなさんは住んでいる場所、畑、山林の地名をご存じでしょうか。地名（小字）から昔の土地のありようや、当時の生活、集落の状況を推し測ることができます。昔は土地の所有をはっきりさせるために、土地を区画し杭を立てて名をつけ、これを「ほのぎ（保乃木・穂乃木）」といいました。明治はじめにはこれを「小字」として、村や町を形づくる最少の単位になりました。

江戸期の古文書にも今の地名が記されているものもあり、地名が今に伝承されていることに感慨深く思います。狩江にはたくさんの小字がありますので、いくつかを、「狩江管見（昭和7年狩江小学校の記録）」から抜き出して紹介します。

〈渡江〉

- ・ 根崎…渡江の根本にあるその先
- ・ 竜王の鼻…竜王神社の跡
- ・ 客の元…客神社の跡
- ・ 酒造屋敷…酒屋がありその裏に渡江の殿蔵の跡があった
- ・ 間口…半島と島との間



〈狩浜〉

- ・ 嶋の元…嶋のある元の磯
- ・ 乳母が懐（ウバガフトコロ）…冬暖かい場所であるため
- ・ 門之脇…城山の城門の脇
- ・ 西木戸…城砦の西門に当たる
- ・ 沖の田…海を埋め立ててつくった田
- ・ 八水（ハチミズ）…泉が多い
- ・ イノワキ…落網代ともいい庄屋専用の漁場
- ・ 荘蔵寺（ショウゴジ）…寺あり。経塚があり、薬師如来と大日如来を祀った
- ・ 蔵の谷…郷蔵有り。後に大狩浜に移したという
- ・ 井手の上…イデ（水路）の上
- ・ フジガシロ…形が富士に似て四方がよく見える
- ・ 火山…周囲を石垣で畳める一坪余りの火を焚いた跡がある（狼煙台ともいわれる）前ページの写真参考
- ・ マドイソ（窓磯）…窓の有る岩が屹立している（今は崩れています）



以前のマドイソ風景
絵：中村清次郎さん

第2次計画書のキャッチフレーズ

“^ここびない ^はじない ^さびない^{むら}集落で 人と仕事をつくる”

今回のキャッチフレーズは、狩江で、狩江地域とともにこれから生きていく者として、次のようにありたいという願いを込めたものです。

- ・^こ媚びることなく、だれとでも共生できる^{むら}集落・狩江人
- ・^ここの暮らしや生業を誇りとし、あるがままに力強く生きる集落・狩江人
- ・いつまでも^さ錆びない、輝き続ける集落・狩江人

私たちは都会の暮らしを追いかけません。これまで先人が築いてきた「よき狩江らしさ」を、大切にしながら、都会にはまねできないこの暮らしを次の世代につないでいきます。

そして自分たちが主役となり、狩江地域のさらなる良さを見だし、仕事を創りあげていきましょう。

この計画書は、地域がめざそうとする目標を示したものです。団体の現在の活動を規制するものでもなく、むしろ団体各位が事業の提案を受けとめ、できることから活動に結びつけていただくことを望んでいます。

また現代は、移り変わりが激しい時代であることから、時機を見定めながら3年を目安に必要なに応じて随時、計画書の見直しを行います。特に狩浜地区における、国重要文化的景観選定に向けた取組や保存計画の策定は、集落で関わらなければならないことです。この他にも市の施策が定まった事業については、その施策に準じて体制を整えていくことが肝心です。本計画の中には本来、詳細な実施計画が必要なものもあり、これから会の中で改めて考えていくことにします。

それぞれのページには「僕（ぼく）」が登場します。これは「僕が二十歳になった時」をテーマに、僕とともに成長していく狩江の姿を想像し、描いたものです。みんなで、子どもたちの夢を育みつつ、集落を育てていきましょう



人口減少、待ったなし！

このままだとこの後も人口減少は続く…

明浜町の人口は、終戦時まで 10,000 人弱で推移し、戦後は一時的に 12,000 人まで増加しました。しかし、その後の高度経済成長期に入ると一気に減少し、現在は約 3,000 人（平成 27 年）まで減っています。今の状況が続くと人口が増える要素は少なく、今後も引き続き減少していくと考えられます。

日本全体の人口が減っている中、狩江地区の人口減少も自然の流れとしてとらえることができます。または、人口は少なくても、少ない人数で幸せな暮らしが維持できればよいという考え方もあります。しかし、住民の中には、これ以上減少してはいけないという声が圧倒的に多数です。

人口はどこまで減っても大丈夫か？

では、どこまでなら人口減少に耐えられるのか？様々な意見がありますが、その意見のいくつかを紹介しましょう。

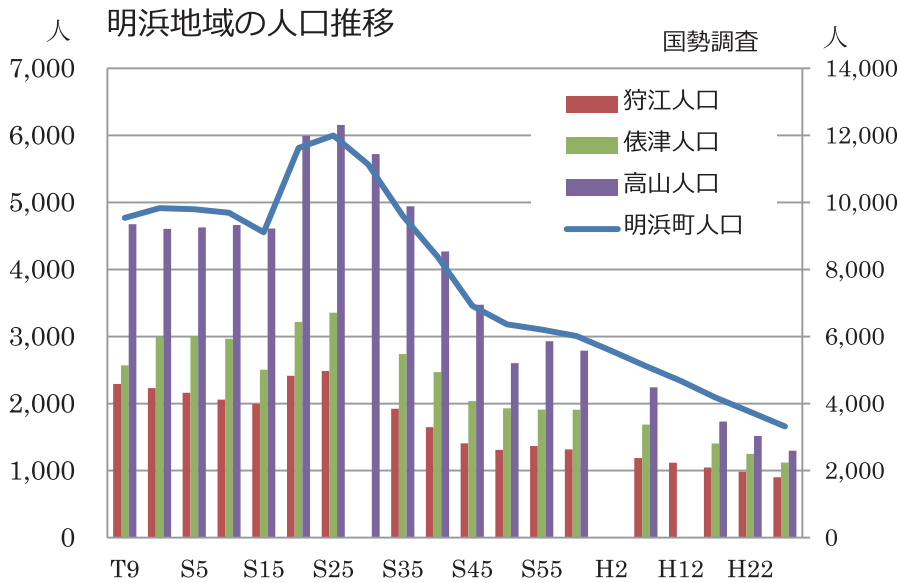
- 地元らしくいられるように
- 小学校が廃校にならない程度は必要
- 子どもがいなくなてはいけない
- 祭りや盆踊りが続けられる人口は維持したい。今でもその人数が足りてない
- 集団や組織、コミュニティが維持できる人数がちょうど良い
- 施設（集会所等）の維持ができる程度
- 1集落に30世帯・60人

※集落を班と見なして7班で計算すると、210戸・420人程度になります。

子育て世代の定住に着目する

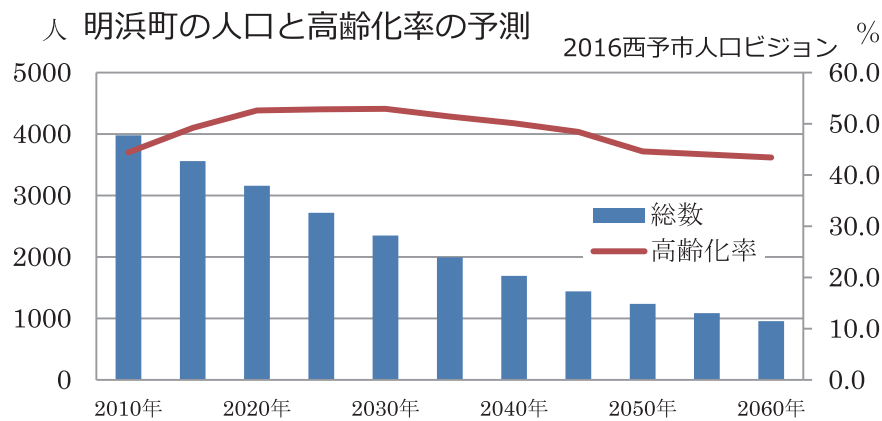
伝統ある祭りや盆踊りの維持は、大人より子どもの数を確保することが大変になる場合があります。また、将来の狩江地区を担う人材を育てるためにも、ある程度、子どもの数を維持することが必要です。

従って、単に人口の維持だけではなく、子どもと子育て世代に着目した定住を考えていくことが重要になってきます。



明浜地域の人口は、戦後の一時期に増加したものの、高度経済成長期から激減しました。将来も減少傾向が続き、2060年には人口が1,000人を下回ると予測されています。

狩江も同様の傾向を示すと考えられ、何もしなければ今後も大幅な人口減少が続き、地域活動の維持が困難になります。



0歳 「同級生はたったの5人!?!」

2016年、僕は狩江に生まれた。
 家族は、働き者のお父さん。
 よく笑うお母さん。
 優しいお姉さん。
 そして、みかん山で働く
 おじいちゃんとおばあちゃん。
 同じ歳に生まれた地区の同級生は、
 5人くらいだったと思う。
 おじいちゃんが子どもの頃には、
 同級生が30人もいたらしい…!



かり え だましい
「狩江魂」を伝える

狩江に住むことの幸せ

それは人と人の関係によってつくられる

狩江の良さや狩江で得られる幸せを自覚し、示していくことは、子や孫に何を残すのかを考えるうえで大事なことです。また、狩江の魅力をしっかりと伝えていくことは、外部の人が地域を深く知り、訪れたい、住んでみたいと思えるようになるきっかけづくりに必要なことです。

狩江に住むことの幸せとして、住民には次のような実感があります。暮らし、地域で力を合わせる活動、治安など、住民同士のつながりで得られることが多く挙がっています。また、豊かな海をはじめ自然に着目した意見もありました。

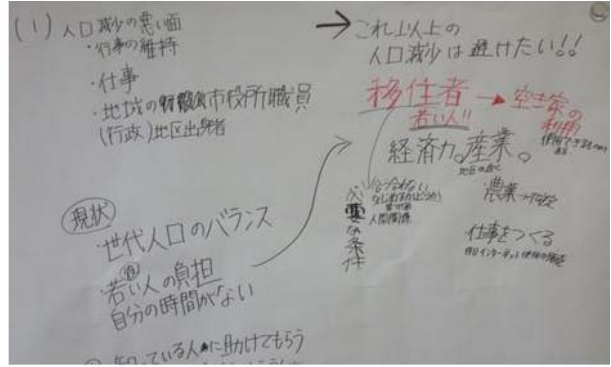
- 普段の生活が幸せ
- 人それぞれであり、生まれてから過ごしてきた生活を続けられること
- 住んでいる人の「地元が好き」という気持ちが良い
- 狩江出身ということに誇りが持てる
- 人間関係が良い
- 人が集まって活動すること
- 全ての面において温（ぬく）い
- 治安が良い
- 近所の様子がすぐわかる
- 海、空、星
- 毎日、魚が釣れることが幸せ



子や孫に何を残すか？

狩江の良さを引き継ぐには、親世代から受け継がれてきた事柄を続けていくことが大切です。それは、秋祭りや歌舞伎くずしの盆踊り、亥の子などの伝統行事に代表されます。これらは幼少期から触れることによって、遺伝子レベルにまですり込まれる、しっかりしたものです。また、段畑景観や山、海などの自然も先人の労苦や暮らしを語り継ぐうえで、残していくべき狩江の財産です。

しかし、今後はそれらを教えて（語って）くれる人、助けてくれる人、支えてくれる人が減っていく時代。これからこのことを踏まえ、しっかりと地区内の教育活動の幅を広げ、伝えていくしくみを早期に整える必要があります。



本計画のため、ワークショップ、聞き取り、交流、地区教育研究大会での議論などを重ねてきました。狩江について語る場面が日常的にあることは、住民みんな未来を共有する下地づくりにつながります。

4 歳 「祭りと盆踊りは狩江で一番いい日」

おじいちゃんは狩江の秋祭りが大好き。
 おばあちゃんは渡江の盆踊りが近づくとそのわそのわしている。
 お父さんもお母さんも「いそがしいなあ」といいながらニコニコする。
 この日はぼくらの晴れ舞台。近所の人や親戚の人、
 ぼくが知らないよその人たちも大勢家にやってくる。
 みんなが集まって、楽しそうにご飯を食べる日は、とても楽しい。
 狩江で一番いい日。
 口説きの太鼓の音が聞こえてくると
 胸がドキドキする。お祭り風が吹き
 はじめると、なぜか心がわくわくする。
 お父さんもおじいちゃんも、
 きっと子どもの頃から
 同じ気持ちだったのかもしれない。



住める場所をつくる

狩江の人と土地に共感すれば誰でも住める

狩江の住民は、子育てをしている家庭や活動の担い手となる若い人、狩江を気に入った人なら受け入れていきたいと考えています。狩江に住んでみたいと思えば、人や土地の雰囲気になじんでいくことから移住の第一歩が始まります。

- 田舎のつきあいができること。田舎を楽しめること
- あるものに満足できること。田舎の生活に対応できること
- 都会は行政がやってくれるが、田舎は自分達でやらなければならない
だからこそ近所づきあいが大事で、地域の構成員になることが重要になる
- 一芸があると好感度アップ！

このような狩江の様子は外部の人にはわかりにくいので、ホームページやブログなどを通じた情報発信が必要になります。

一方で、住民の中には「子を呼び止めてまで帰ってきてほしいとは思っていない」という考えもあります。そのため、子どもたちが自然と帰りたくなる地域づくりや生活条件づくりに取り組む意義は大いにあります。

住む家を用意する

狩江を知ったうえで、ここの暮らしが気に入ったら、住む場所が必要になります。空き家も増えていますが、それを貸し借りするしくみがないので、住む場所を確保する必要があります。地区でできることとして、移住を決める前に一定期間をここで過ごすためのお試し住宅の整備や運営について取り決めをつくる、空き家の所有者に働きかけて貸し借りを促進する、住居の情報を発信して興味のある人を募るなどが考えられます。

家の活用をめぐるっては、信頼性に基づいて活動を実施するため、個人での対応より地区の公的な活動にすることが必要になります。また市が進める空き屋対策と足並みをそろえることも大切です。

子どもの移住を促進する

移住者、とりわけ子どもを増やす試みとして、海浜留学の実施や里親制度を普及させる余地もあります。

狩江に移住してきた人たちに聞きました

Q.やりたい仕事があるから狩江へ移住してきた

A.仕事は手段。家族を支える糧。仕事重視の人もそうでない人もいる。仕事は時代に応じて形を変えてきた。その中でやりがいが見つかるといい。

Q.就農(柑橘農家)はしやすい?

A.人手は足りていなくて、働ける人はほしい。一年を通してすることはある。しかし、畑は簡単に手に入らない。土地は先祖代々のものだから。

Q.出身者を呼び戻す可能性はありそう?

A.実家は楽でいい。実家は帰るところであっても住むところではない。盆踊りや祭りが好きで帰ってくる人はいるが、住むわけではない。

Q.住居は?

A.住むための家は必要。物件がなかなかない。居着いて情報が出てくるのを待っている。1年を通して住んでみなければ地区のことはわからない。

Q.移住のための条件として重視するものは何?

A.やりがいのある仕事、受け入れてくれる人々、美味しいもの。味はもちろん、その場の雰囲気や、食事に招待されると、いっそう美味しいと感じてしまう。

10 歳 「都会から引っ越してきた家族たち」

僕の同級生は地区に数人しかいなかった。

家も遠いところにあったから、遊べる友達も少なかった。

小学校5年生の時、近所に新しい家族が引っ越してきた。同級生もいた。狩江に来る前は都会に住んでいたらしくて、おとなしそうな人だなと最初は思った。

でも、すぐに友達になった。海の近くに住むのは初めてらしい。

なので、僕達は毎日のように海へ行って、釣りや水泳をした。

そういえば、最近では都会から移り住んで来る人がいる。

どうして狩江にやって来るんだろう?



仕事をつくる

住み続けるために仕事を確保することは必須です。現状で最も安定している就労は、宇和町、宇和島市、大洲市等への通勤で、片道 30 分～1 時間弱と通勤圏内です。

狩江内での仕事は、現状では十分な雇用がないため、自分で起業したり勤め先を見つけたりする必要があります。また、仕事を考える時に、いくらあれば生活が成り立つのかも重要な判断材料になります。

人生の節目によって必要な収入額を念頭に置く

若い単身者、子育て世帯、中高生以上の子どもがいる世帯、定年後の世帯など、人生の節目に応じて日々の暮らしに必要な費用は異なります。子どもの教育費に最もお金がかかっています。高校の通学（場合によっては中学校から）に月約 3 万円、大学進学では 1 人あたり約 1,000 万円が必要となるため、子どもが幼少の頃からの将来設計を立てることが必要になります。

また、通学対策とともにコミュニティ・バスの改善や過疎地有償運送などを検討する余地があります。

地域の資源を活かしてできる仕事の機会を増やす

■ 柑橘栽培

条件の良い園地と経営ノウハウがあれば、年に 380 万円程度の手取りを得ることができます。しかし、新規参入で園地を手に入れることは難しい現状にあり、今後は管理がむずかしくなりつつある園地を、農業がしたい人に任せるしくみが必要になります。

■ 漁業（養殖、ちりめん、真珠）

海面の使用には漁業権を取得する必要があります。現状では新規参入ができません。一方で、近くに魚介類の加工場ができたことから、雇用創出が期待できます。

技術や知識を活かして起業する

個々の技術や専門性を活かしながら起業する余地があります。食品の製造・販売、IT 関係、芸術関係などが考えられます。

公共性の高い事業を興そうと考えている住民またはグループに対して、資金の一部を助成し支援することは、暮らしづくりや仕事づくりにとって有効です。

狩江で住むために1箇月に必要と思われる生活費（試算）

若い単身者	8～10万円程度
子育て中の世帯（小学生以下）	20万円前後
子育て中の世帯（町外の中学校・高校へ通学）	26万円前後 ^{※1}
大学生が一人いる世帯	40万円前後 ^{※2}
定年後の世帯	15万円前後 ^{※3}

※1 町外の中学校・高等学校へ通う場合は、バスの定期代として1人あたり3万円程度が必要になります。また、部活動をする場合には最終バスの時間が合わないため、家族が送迎する必要もあります。

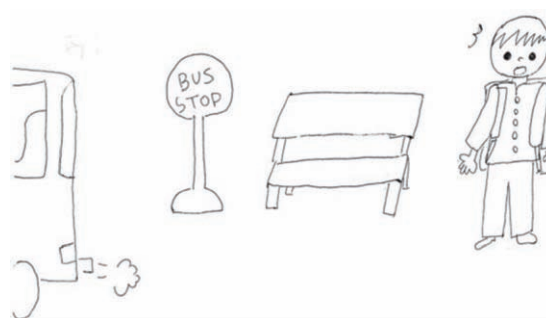
※2 大学の進学・就学にかかる費用を親が支出することを想定しています。入学から卒業までにおおむね1,000万円が必要であると想定し、これを年・月で割り戻しました。

※3 若い単身者と同じような生活が考えられますが、香典や子・孫への小遣いなどを算入しています。

人生の様々な段階で、子どもの就学費用が家庭の最も大きな経費になります。特に、中学校や高校で子どもが町外へ通学する時には、定期代や送迎を家族が負担しなければなりません。子どもの就学費用が一段落すると生活費は低く抑えられますが、今度は地区の交際費や子や孫のお小遣いにお金が必要になります。

16歳 「デマンドバスができた！」

狩江や明浜町に高校がないから、僕は宇和島の高校へ通っています。でも一つ大きな悩みがありました。バスの時間が合わないので、好きな部活動に打ち込めません。ちょっと気になる女の子がいたけれど放課後のデートに誘えませんでした。それで、どうしても引っ込み思案になりがちでした。



ある日、予約をしておけば迎えに来てくれる小さなバスができました。なんと、狩江の人専用です。運転手さんも狩江の人。このバスができて、両親は僕の送迎が減って楽になったようです。うちのおばあちゃんも、宇和の病院に行きやすくなったと喜んでいました。

暮らしの安心を守り未来へ備える

災害への備えを充実させる

地震や津波などの可能性がある中、災害に襲われた時の対応について検討が進んでいます。狩江でも自分達でできる対処方法を考えておかなければなりません。「かりえ笑学校」を拠点に防災設備の充実を図る、避難経路の確認、自力移動が困難な住民の支援体制を構築するなど、自らの対応を充実させていきます。

放置されている山や畑を手入れする



高度経済成長期以降、森林の放置・荒廃が進みました。さらに、農業の担い手の減少と高齢化によって、放棄される農地が出始めています。これらは早めに管理をしておかなければ、地域の資源としての価値が低下します。また、防災上にも景観的にも良くありません。従って、放置林の整備、耕作放棄地を野菜畑として活用するなど、未利用資源の手入れを進める必要があります。

高齢者がもっと安心して生活できるようにする

独居や^{※1}高齢者のみの世帯、車に乗ることができない世帯などは、生活利便性が低下しています。交通が不便なことへの対応は先に述べた次第ですが、合わせて生活面での様々な便宜を図ることも必要になってきます。例えば、インターネット販売の代行、移動販売の実施・充実、暮らしの困り事を何でも引き受ける便利屋の起業などが考えられます。

介護や医療についても検討の余地があります。近隣の助け合いを基本とした介護面での連携、健康診断、体調を崩した際の支え合いなどが考えられます。

^{※1} 高齢者は現在 65 歳以上と定義されていますが、日本老年学会などはその定義を 75 歳以上に見直すように提言しています。調査により 10 年前に比べると身体の働きや知的能力が 5～10 歳は若返っているという理由から、65～74 歳の前期高齢者を「准高齢者」、90 歳以上は「超高齢者」と区別することももりこまれています。主に医療技術が進んだこと生活環境が改善されたことにあるとされており、准高齢者層はまだまだ社会の支え手、この年代が仕事はもとよりボランティアなどの社会参加活動に関わることで、これからの高齢化社会にいい影響を与えるといわれています。

狩江地区は平成 27 年国勢調査によると 65 歳以上の総人口に占める割合（高齢化率）が 51.3%（施設入所者含む）で高齢社会（高齢化率 14～21%）を早くから超えた超高齢社会（同率 21%以上）。かくいう日本は、同調査結果では、総人口 1 億 2,711 万人、うち 65 歳以上の高齢者人口は、3,392 万人で、高齢化率は 26.7%。おおむね狩江の半分です。狩江のお年寄りの暮らし方が「かっこいい！素敵！」となれば、日本の中で超高齢社会の先進地になれるかもしれません。

南海トラフ巨大地震の津波被害の想定 (四国・九州沖が震源の場合)



※内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」より
海岸で10m以下の津波が到達し、内陸は5m以下の浸水可能性があります。

18歳 「地震が来たけれど大丈夫」

ある日曜日のことです。
家にいたら突然の地震に驚きました。
その後、津波警報が発令されましたが、
うちにはおばあちゃんと僕しかいません
でした。



でも、玄関に防災の手引きを常備して
いるので、落ち着いておばあちゃんの手を
引き、「山の神様」にある防災倉庫へ向かいました。
地震で少し壊れた家はありませんでしたが、みんなすぐに避難場所まで逃げる事ができ
て、大きな被害は出ませんでした。

狩江の防災のしくみは、僕が生まれた年につくられたそうです。

暮らしがもっと楽しくなるようにする

快適な環境で、のびのびと子育てがしたい

子どもの数が減る中で、子どもとその親を取り巻く環境も厳しくなっています。「かりえ笑学校」を活用するなど、子育て環境の充実を図ることが必要になってきます。また、小学校の統廃合によって学校が遠くなったことの影響を考え、子どもが放課後や休日、長期の休みなどで過ごしやすい環境を整える必要もあります。



若い人にかかる負担を考える

若い世代が少なくなっているため、そこにかかる世話役（職）の負担も大きくなっています。地域の役に忙しく、自分達の時間がないという声も聞こえています。逆に、楽しければ若者も集まってくると考えられます。そこで、役の負担を軽くする方法を考えるとともに、若者が集まることのできる機会をつくる必要があります。

お金に（数字に）表れない経済を促進させる

狩江の魅力は人の魅力。お金を介在させずに助け合いが日常的に行われ、おすそわけやかつてからの^{※1}「おとみ」の文化もあります。また、生鮮食品を販売する店は少ないですが、^{※2}「あさじり」で野菜をつくり、海で魚を釣り、それらが食卓に並ぶ自給的な暮らしは、豊かさの象徴であると同時に、経済が外部へ出ていくことを防ぐ重要な役割も果たしています。

これらの自給的暮らしぶりを意識して促進することにより、お金や数字に表れない経済を活発化させ、暮らしの豊かさを実感することができます。

^{※1} おとみ…お年寄りや隣近所などに手土産（例：おかず一品）などをおすそ分けしたときに、マッチ棒を数本お礼（おとみ）の意味で手渡す風習がありました。昔、マッチは台所のガスコンロや風呂の焚きつけに必需品、また台所がかまどの時代には枯小枝をそうしていたといいます。こんな風におすそ分けする側、される側も気兼ねなく共助の関係がつけられていました。今は何かを買ってお返しする方もいるようですが、生活改善運動も時代とともにすっかり形骸化しました。地域内の自給、経済循環の面からも過去のおとみ文化に学ぶことも必要かもしれません。



^{※2} あさじり…自給用の菜園。ほとんどが歩いて行ける近くの畑で、中には家屋跡を菜園にしている例もあります。となりの菜園で互いに人の息づかいが感じられ、時には野菜のおすそ分けが行われるなど、集落のコミュニケーションの場でもあります。

地域で子どもを育てる・地域が子どもを育てる



のびのびプラタナスの会

かりえ笑学校を活用し、子どもと親がともに楽しめる場所を運営しています。子育てスペースは、地区の大人と子どもがふれあうきっかけをつくり、親同士が交流や気軽に悩み相談ができる場所になっています。



渡江の盆踊り（歌舞伎くずし）

祭りや盆踊りでは、子どもにも大事な役割があります。狩江の子どもは、このような行事を通して地域の一員であることを自覚し、責任を持つことの重要性を学んでいます。彼ら彼女らが大人になり、さらに次の世代へ伝統を継承します。

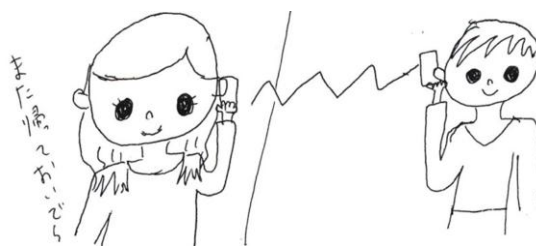
20 歳 「姉一家、狩江に移住する」

僕は今、狩江を離れて松山市内で1人暮らしをしています。大学で地域づくりについて学びながら、狩江で生きていくためにはどうしたらよいかについて考えています。

4歳上の姉は去年結婚してからも、しょっちゅう狩江の実家に帰っているようです。

子育てをするには良い環境だということで、甥っ子が生まれてからは週末ごとに家族で帰っているということでした。

ある日、母から電話があり、姉一家が狩江に移り住むことになったと聞かされました。父母は言葉にこそしませんが、とても喜んでいる様子は見えてすぐにわかります。



もっと狩江を知る、狩江を学び場にする

狩江について学ぶ場をつくる

得意技や知識を活かすことで暮らしがもっと楽しくなり、住民の生きがいにもつながります。例えば、狩江の成り立ちや歴史、生業の移りかわり、昔話、人々の生き方について学ぶ教室「狩江学」の開催、外部の人を招いての釣り教室、秋祭りや渡江盆踊り（歌舞伎くずし）の歴史や作法を記録して後世に残すことなども考えられます。



狩江の魅力を語れる人を増やす

狩江の良さを守り伝えていくことは、住民の誇りづくりにもつながります。文化的景観の調査で明らかになった事柄も多くあり、今後は文化的景観の調査結果の活用や保存計画の策定を進めていく段階に入りました。

また、現在は段畑をはじめとする景観を説明しながら案内をする 15 名のジオガイドがいます。今後は増員などによってジオガイドの充実も考えられます。し



かしながら地区住民は、地元の魅力についてはあまりに身近すぎて感じにくい一面があります。今後は様々な機会を通じてその自覚を促し、住民自らが語り部となり、集落の魅力を語るができる取り組みを強化する余地があります。

地域の資源と学びで外部の人との連携を進める

狩江の自然、人、歴史、生業などは地域の魅力であるとともに、日本の成り立ちを学ぶ教材でもあります。都市部へ人口や経済の流出が進む一方で、都会の閉そく感から原点回帰を意識した動きもあります。狩江には学びの場を提供できる潜在力が十分あることから、外部の団体や教育研究機関との連携・交流を進め、狩江の地域づくりを一層飛躍させることとします。

このような動きは、一般的に表現される「観光(業)」とは異なることを理解し、地域の資源を学び深めるための訪問・滞在を新しい概念と言葉にして、狩江独自の交流のしくみを発信したいと考えています。先人から受け継いだこの地域のありようや、人の生きざまこそが集落の価値であり、そのことを語り継ぐことが何より大切なことです。

なお、ここで滞在するには、地区内で宿泊や食事の対応が十分とは言えません。

民泊(ホームステイ)の推進と充実、大人数の研修や合宿にも対応できる方策を進めていく必要があります。

狩江と大学との連携



地元学ぶ地元学(2016;愛媛大)

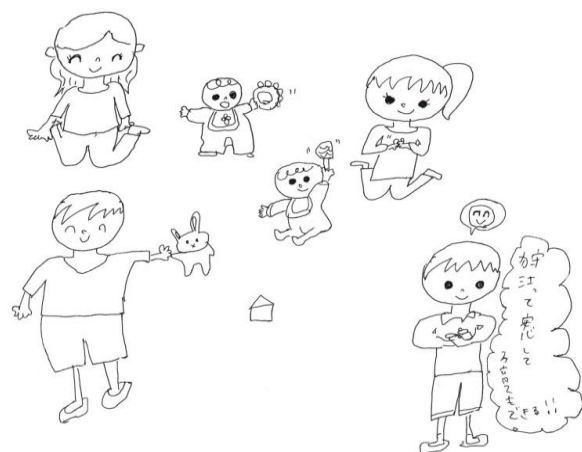


子どもワークショップ(2015;東洋大)



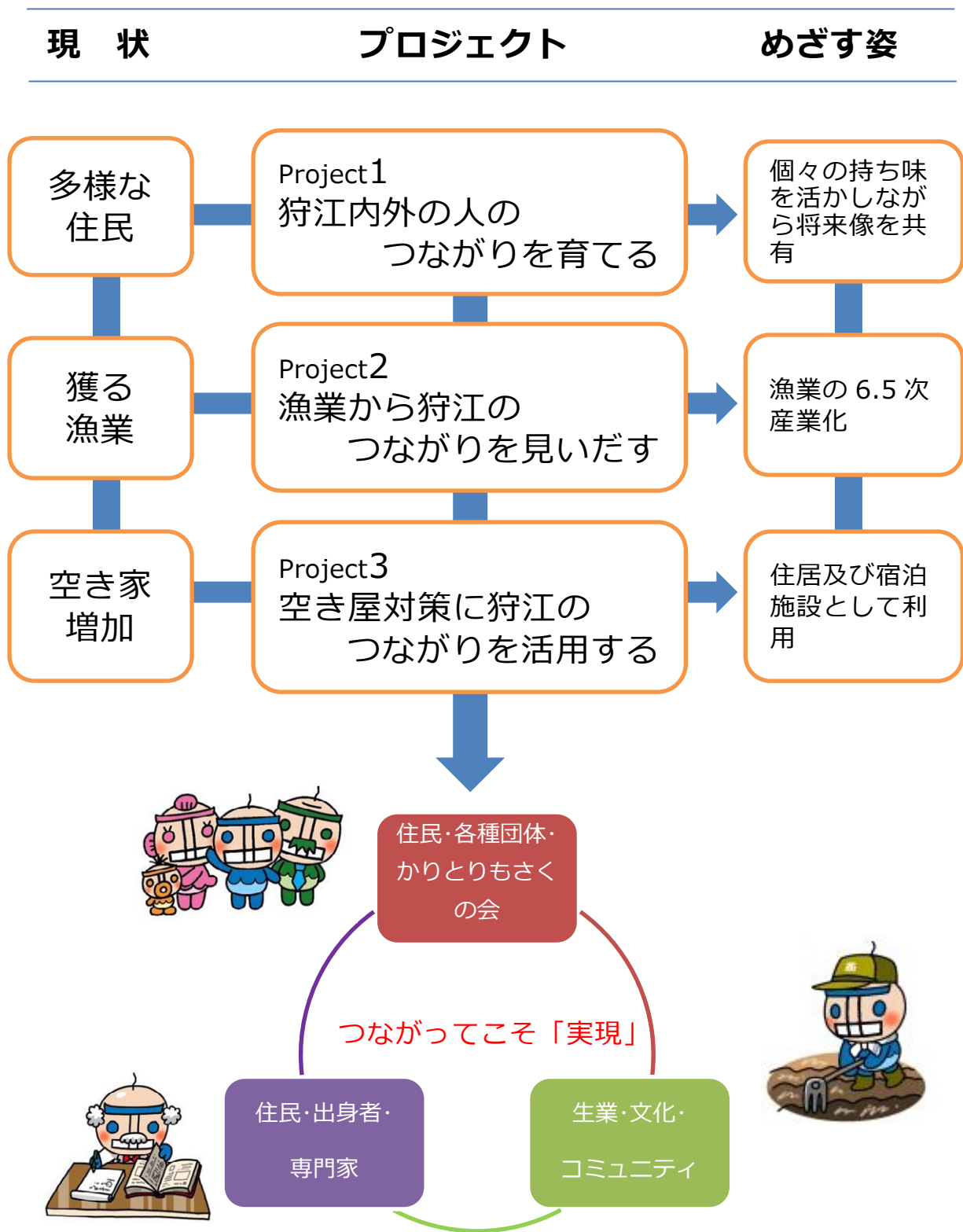
SUIJI サービスラーニング(2013~;愛媛大・高知大・香川大・インドネシア3大学)

祭りの音。海のおい。
道ですれ違う時に交わす挨拶。
日向飯。アジの塩焼き。
どれも僕には忘れられない記憶です。
大学卒業後は狩江に戻ると決め、
狩江で仕事を興す計画を
卒業論文にまとめる予定です。
民宿経営、ドライバー、ジオガイド。
少しずつですが、いくつかの仕事を集めればそこそこの収入になります。
今は、都市部の子ども達が来て狩江で学ぶプログラムのガイドが楽しみです。
僕が子どもの頃に遊んだ海や山のことを話しています。



【3つのつながりプロジェクト】

今回、狩江地域づくり計画にあたって、3つのプロジェクトを推進します。



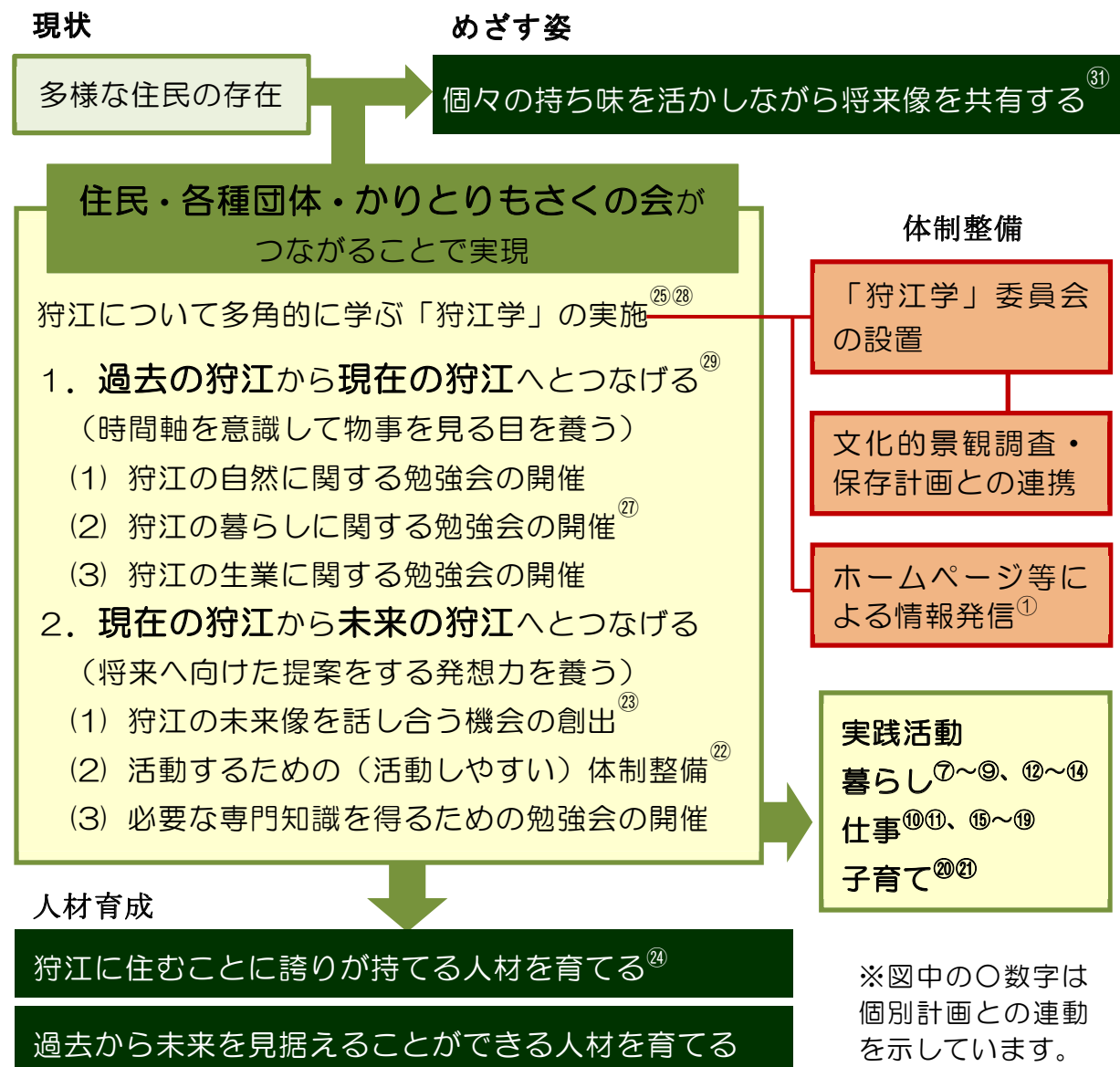
【3つのつながりプロジェクト】

5年間の重点
実施事項！

狩江内外の人のつながりを育てる

狩江の内外とのつながりをつくり、実践すべきことはたくさんあります。その前提として、中長期的に何をを目指すのか、狩江をどのような地域にしたいかを住民同士が認識する必要があります。将来像が共有できてはじめて、「人與人」、「活動と活動」のつながりが強固なものとなり、意味を持ちます。

多様な人々がいる中で、意見をまとめることは容易ではありません。絶えず議論を重ね、勉強し、アイデアを出し合い、それぞれの住民ができる範囲で行動することが重要です。そのための機会を設け、「人任せ」から「自分育て」への転換を後押しします。



【3つのつながりプロジェクト】

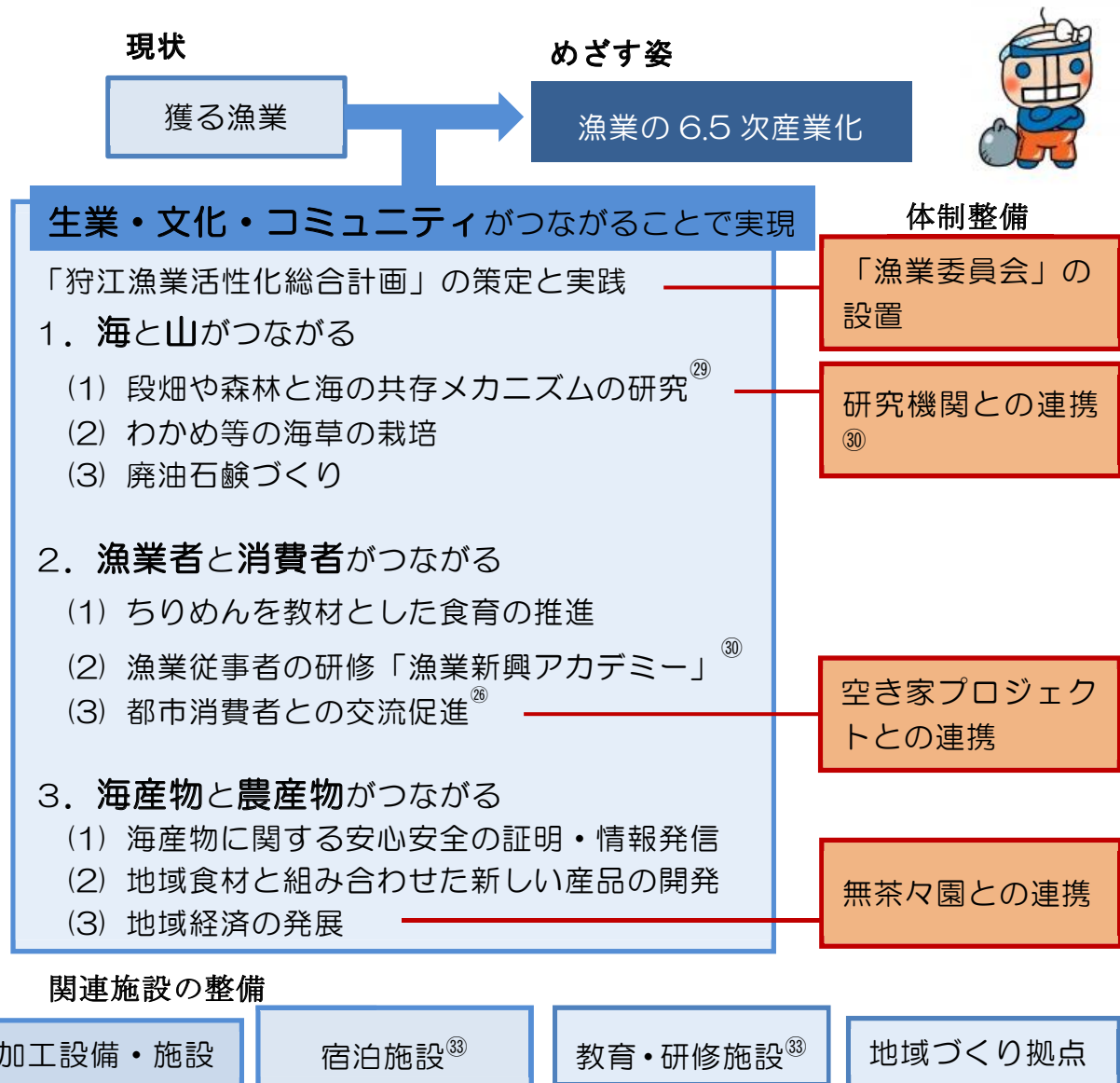
5年間の重点
実施事項！

漁業から狩江のつながりを見出す

かつて、狩江では漁業が主要な産業で、イワシ網漁業が昭和30年代に衰退し、真珠養殖業やハマチ・鯛の養殖、ちりめん網漁に変わってきました。現在、狩江には4統のちりめん網がありますが、若年者の就業が難しく、従事者の高齢化も進んでいます。

また、海の環境の変化によって漁場の荒廃が進み、海の浄化能力の低下、漁業資源の枯渇が心配されています。

このような状況を改善し、持続的な就業を可能とするため、地域が一体となった漁業の6.5次産業化をめざします。



※図中の○数字は個別計画との連動を示しています。

【3つのつながりプロジェクト】

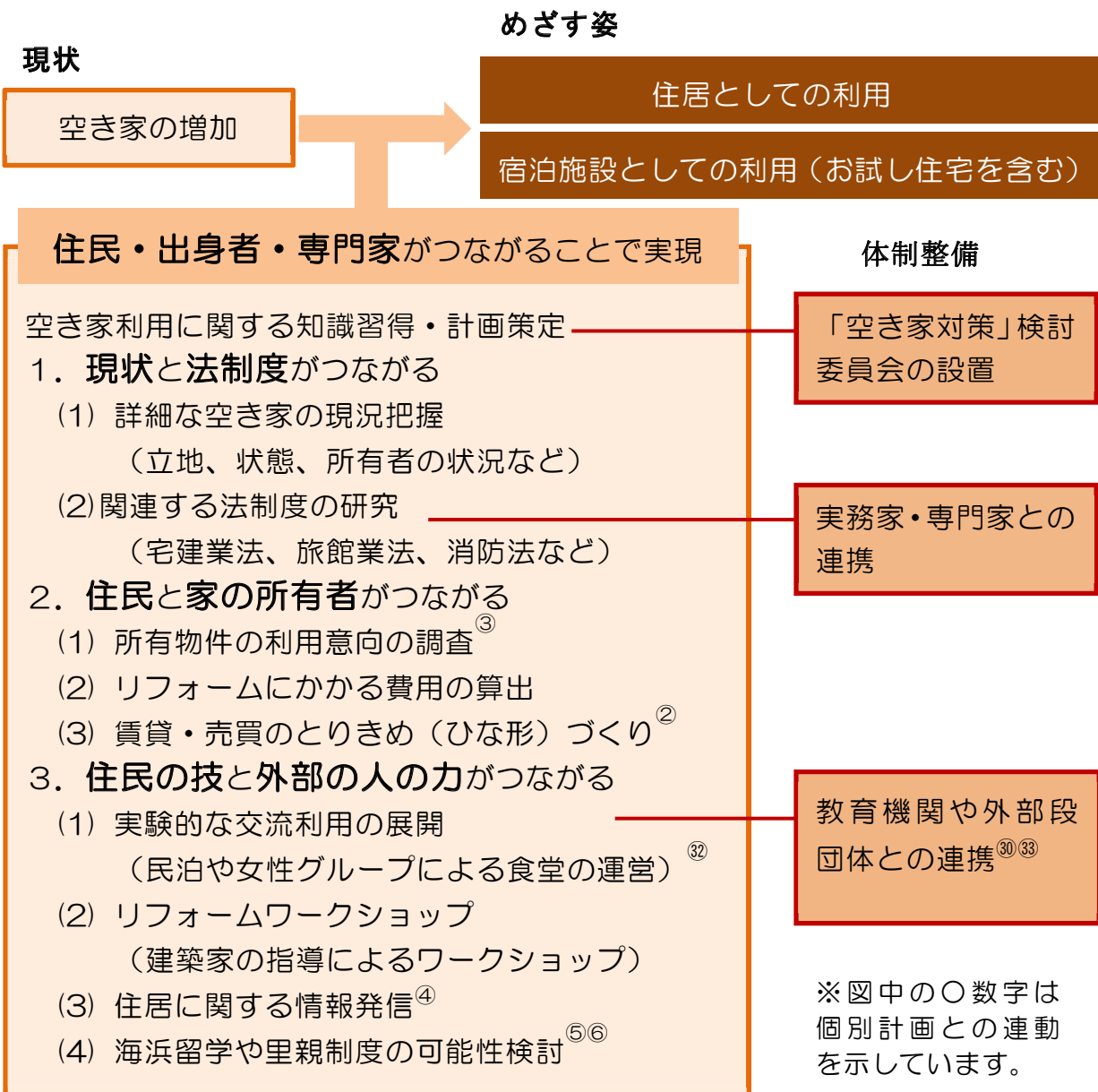
5年間の重点
実施事項!

空き家対策に狩江のつながりを活用する

人口・世帯の減少に伴い、狩江にも空き家が目立つようになってきました。既に取り壊された家屋もあれば、現存する家屋を祭り時期などに年数回利用している出身者もいます。

定住や交流の促進を考えると、これらの空き家を可能な限り有効していくことが考えられます。しかし、法制度面での制約があること、責任ある実施者が存在していること、ある程度の資金が必要であることなどの課題も存在しています。

そこで、空き家が有効利用できる方法を構築するため、西予市の空き家対策と連携しながら、できることから取り組みを始めます。



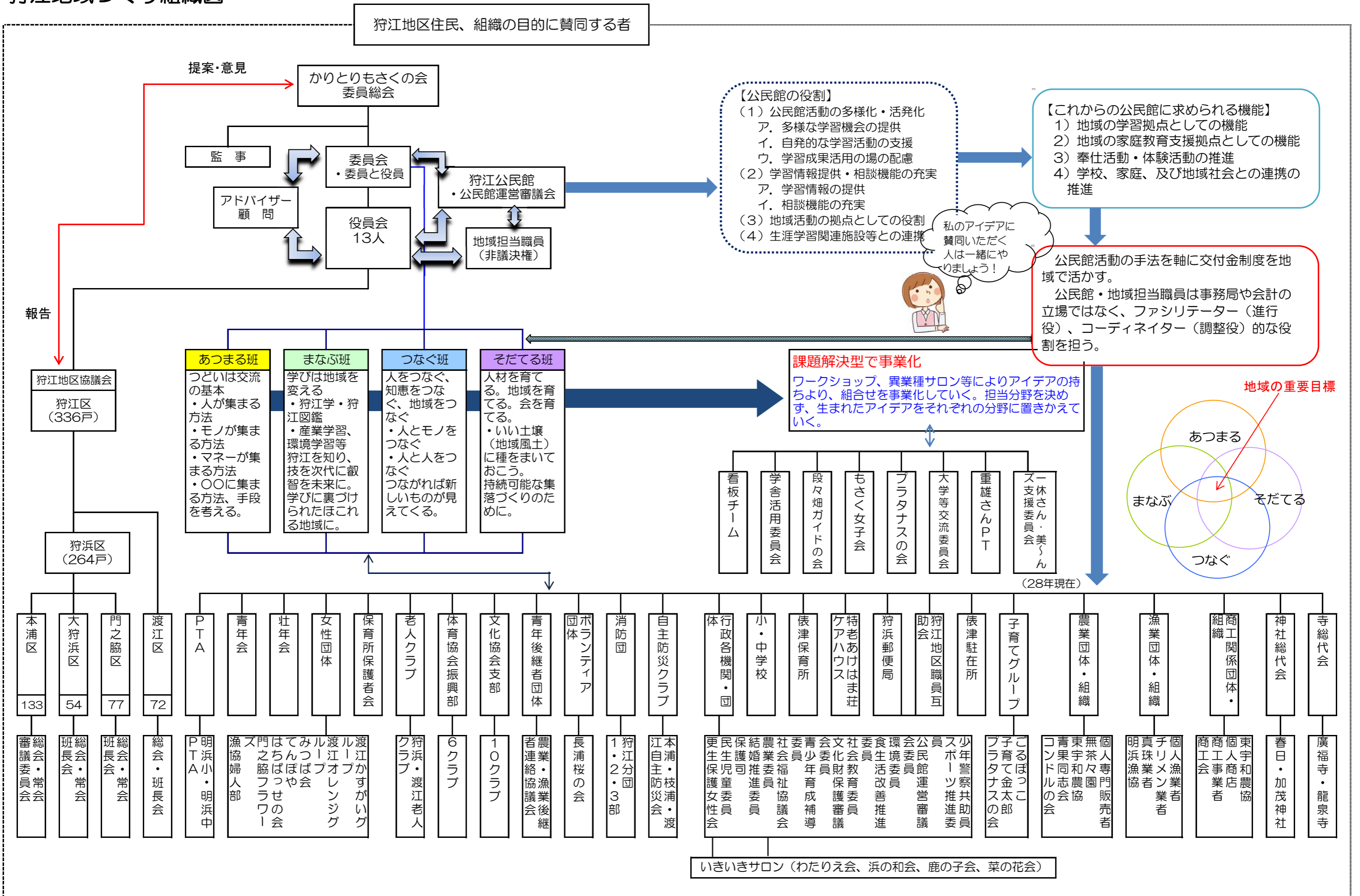
【将来計画】

僕が二十歳になったとき、狩江が大好きになっているために

取り組みの内容	20年後のすがた	5箇年で行動する			10年以内に実現
		すぐに着手	5年内に実施	検討を開始	
①ホームページやブログなどを通じた情報発信を充実させる	日本や世界で「幸せな暮らし」で検索すると狩江がトップに出ている	○			
②お試し住宅の整備と運営の取り決めをつくる	移住希望者が利用するお試し住宅が10軒程度ある	○		○	
③空き家の所有者に働きかけて賃貸を促進する	人が住んでいない家がなくなっている		○		
④住居の情報を発信して利用者呼び込む	戸建て賃貸物件を狩江の団体が管理・運営している		○		
⑤海浜留学の実施	狩江に住みながら小中学校へ通う児童・生徒が一定数存在している				○
⑥里親制度の普及	子育てや子どもの育ちで全国に誇れる狩江に子どもが集まってくる				○
⑦通学の負担を軽くする	通学にかかる金銭的負担や家族の送迎の負担が解消されている		○	○	
⑧コミュニティ・バスの改善	市内を循環する交通網が少し便利になっている			○	
⑨過疎地有償運送の実施	狩江に運行会社ができ、自動車を運転できない人が便利になっている			○	○
⑩樹園地を農業がしたい人に任せるしくみをつくる	農地利用の斡旋をする組織が存在し、土地利用が促進されている		○	○	
⑪事業を興す住民やグループに資金の一部を助成する	狩江から起業家が多く生まれ、成功している			○	○
⑫防災設備の充実を図る	防災設備が充実し、かりえ笑学校が防災の拠点になっている	○			
⑬災害時の避難経路を確認する	狩江の防災非難マップができ、各家に配備されている	○			
⑭自力移動が困難な住民の支援体制を確立する	近隣の助け合いを基本として、高齢者を支援する体制ができている	○			
⑮放置林を整備する	バイオマス利用と絡めて森林整備が進んでいる			○	○

取り組みの内容	20年後のすがた	5箇年で行動する			10年以内に実現
		すぐに着手	5年内に実施	検討を開始	
⑯耕作放棄地を野菜畑として活用する	耕作放棄地の菜園化が進み、住民、移住者、外部の人が利用している	○			
⑰インターネット販売を代行する	住民の暮らしの質を高めるなんでも屋のような店ができています				○
⑱暮らしの困り事を何でも引き受ける便利屋を始める					
⑲移動販売の実施・充実を図る					
⑳子育て環境を充実させる	楽しく子育てができるグループが充実した活動をしている	○			
㉑子どもが過ごしやすい環境を整備する	子どもと住民と一緒に学び活動する取り組みが複数存在している		○		
㉒世話役（役職）の負担を軽減（組織や体制の見直しを進める）	かりとりもさくの会をはじめとして狩江の組織が動きやすくなっている			○	
㉓若者が集まることのできる機会をつくる	人々が世代を超えて気軽に集まることのできる場所がある		○		
㉔自給的暮らしぶりを意識して促進する	「おとみ」がずっと存在している。野菜や魚の自給が普通である	○			
㉕「狩江学」の開催	子どもから大人まで、住民全員が狩江の魅力を語る事ができる		○		
㉖外部の人を招いての釣り教室	釣りだけではなく、田舎での生き方を満喫できる活動がある			○	
㉗秋祭りや盆踊り（歌舞伎くずし）の歴史作法を記録し後世に残す	伝統行事が狩江の内外の人によって盛んに運営されている	○			
㉘文化的景観の調査結果の活用や保存計画の策定	住民の誰もが狩江の自然、歴史、暮らしを知っており、誇りにしている	○			
㉙ジオガイドの充実	ジオガイドを中心に、学びのツアーが安定的に行われている	○			
㉚外部の団体や教育研究機関との連携・交流を進める	体験や実習で狩江を訪れる団体があり、また、狩江の魅力を深めている	○			
㉛地域を学び深める訪問・滞在を新たな概念で表現する	「観光(業)」とは異なり、狩江発の新しい交流の概念が生まれている			○	
㉜民泊の推進と充実を図る	10軒程度の民泊が活動している		○		
㉝大人数の研修や合宿に対応する	宿泊・入浴・食事を提供する新しい仕事ができている		○	○	

狩江地域づくり組織図



狩江人に告ぐ (かりとりもさくの会設立宣言)

天に近い段々畑から望む狩江は、養蚕(家屋)の二つ屋根と民家が所狭しと軒を連ね、路地を人々が行き交う。青き入り江には幾艘もの船と、真珠筏が浮かんでいる。鯉のぼりが悠然と海と空の間で泳ぐ。こんなおだやかな風景を見ていると、先人から連綿とつながれてきたこの集落が、このまま永遠に続くのではないかと、錯覚しそうになる。

しかし地域のあらゆる産業が斜陽化し、少子超高齢社会になった現在、集落はどうあるべきであろうか。その結論が見いだせないまま今日に至った。

「守りたいものがあるか？」その答えは集落の歴史の中に刻み込まれている。男たちが戦地に赴き、人手が不足した時代でさえ、女たちがつなぎとめた大切な祭りがある。一度は途絶えたが、蘇った盆踊りがある。これらは老若男女、地域あげてともに支えあい、創りあげた地域文化の結晶である。故に口説き太鼓の音や、秋風に御旗の竿がきしむ音は、狩江人の遺伝子をゆさぶり覚醒させるのだろう。

蜜柑の苗をひたすら植え続ける老農がいる。「誰のために」ではなく、「次の世代の誰かに」ひいてはこの集落のためだという。万年青年と、はばからない彼らの姿に、いったい集落の限界とは何だろうとさえ思う。

だが、集落がこれまで経験したことがない、厳しい時代である。こんな中で私たちは常に明日への希望を持ち、この集落を次代につないでいこう。叡智を寄せ合い、ひとり一人が大切にされ、心地よく歳を重ねられる地域社会を創ろう。

狩江人に告ぐ

- ・農を生業とする者は、傾斜地を開き、石を割り、積み上げたこの段畑を讃えよ。
- ・漁を生業とする者は、「千古不伐」と守り続けた魚付きの林を子や孫に語り継げ。
- ・商いを生業とする者は日向(宮崎)まで、縞(緋)を売り歩いた狩濱商人に倣え。
- ・工を生業とする者は、山深く眠る大石積みを遺し、築港に請われた職人の技に学べ。

郷土の先駆者、源界法印(天神様)が種をまいた、この教育風土を礎に、歴史に学び、先人たちの思いまでも、しっかりと現代の地域づくりに活かそう。

ここには子どもたちが主役になる場所がある。青年が期待され、活かされる場所がある。何よりお年寄りが敬愛される気風がある。

我々は千年(持続可能)の集落づくりをめざそう。私たちとそして次の狩江人のために。



平成23年6月15日

地域づくり組織：かりとりもさくの会





あ と が き

けわしい段々畑を見上げ、ここに残ったことを悔いていたAさん。
美しい風景の中で暮らし、子育てをしたいとここに移り住んだBさん。
ここの人は「人たらし」だと賞賛した、都会に住むCさん。
ここで流れるゆるやかな時間が新鮮だ、といった学生のDさん。
余所から嫁ぎ、静かな余生をおくりながら、もっと集落のことを知りた
いと思っていたEさん。

Aさんはある日、あれほど恨めしく思えた段々畑が、一転、かけがえの
ないものになった。今は段々畑を世界遺産にすると、したり顔だ。

Bさんはこの風土を自分なりに受けとめ、すっかり地元にとけ込んだ。
子どもたちは「狩江っ子」としてのびのび、すくすく育っている。

Cさんは、大好きな「人たらし」の役にたちたいと考え、ここに本物の
音楽を贈ることにした。

Dさんはここに通ううちに、一年暮らしてみたいとどうやら本気である。

Eさんは学びの機会に参加するうち、集落の歴史がひも解かれ、ここで
生きてきた証を手に入れた。

縁のきっかけは様々だが、ここでつながれた人々を狩江^{びと}と呼ぼう。

私たちは他者にこびない生き方をしよう。
私たちはこの暮らしを自慢しよう。
そしていつまでもさびつかない、色あせない
集落をみんなでつくり、山・里・海を、美しい
たたずまいのまま次の人びとに引き継ごう。

先人の生き方がそうであったように、
決してあせらず、一人ひとりが
ここでひたむきに、おだやかに生きていく様
こそが、この地の「光を観る」ことにつながる。





昭和 20 年代後半の渡江集落

狩江地域づくり計画書（2016～2025 年度）
こびない・はじない・さびない集落で人を育て仕事をつくる

発行：2017 年 3 月 かりとりもさくの会

協力：愛媛大学社会共創学部

地域資源マネジメント学科 農山漁村マネジメントコース

連絡先：〒797-0113 愛媛県西予市明浜町狩浜 狩江公民館内

TEL (0894) 65-1047